

神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報

2018年
10月号



発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者
司祭 小南 晃

印刷所
文明堂印刷所

行つてあなたも 同じようにしなさい

司祭 パウロ 上原 信幸



(作業前の祈りの時)

この夏に日本を襲った西日本豪雨と複数の台風によって、西日本に限らず、多くの地域が被災しました。各地で様々な被災者支援の活動が行われ、神戸教区では広島、聖モニカ幼稚園と倉敷聖クリフトファー教会をボラ

ンティアセンターとしてお借りして、8月いっぱい活動を実施しました。当初、複数個所での活動は様々な困難を伴うことも予想されました。しかし遠くない将来、高い確率で東南海トラフ地震が起こることも想定されています。大規模災害下では、安定した状態で活動を行うことが困難な状況も起こる事も念頭に入れ、神戸教区西日本豪雨被災者支援室は、2か所での活動を開始しました。ボランティアセンターの開所式にあたって、小林主教は「この働きは、多くの人を前にして、五つのパンと二匹の魚にも満たないかもしれないが、神様に用いて頂けると信じて、お奉げしたい」と説教されました。まさに不十分な形ではありますが、スタートが切られたわけです。

災害の中で

かつて災害にあった人間にとつて一番の関心事は、「神々はいかたが、この地上に存在することを、許しておられるのか」ということでした。人々は神々が天罰を降すとき、雷や豪雨を天からの槍や弓として用いると信じていたからです。古今東西、世界各国の歴史的な遺跡には、様々な犠牲が献げられた祭壇があります。夜になれば、もう太陽は昇らないかもしれない。大雨がふれば、神が生き物をすべて消し去ろうとされているのかも知れない。いにしえの人達は、真剣に悩み、神々の怒りや祟りを鎮めるため、その祭壇に犠牲を献げました。ですから、洪水対策を行うときには、人間を人柱という

雨の弓

「神様は人間を呪ったり、祟ったり、滅ぼそうとはされていない。虹(レインボウ)が、下向きになつていけば、地を打つということだ。けれども、神様は雨の弓を上に向けて、地を打たないと約束されたのだ。だから、神に呪われた者として、人間同士が傷つけあつたりする必要はないのだ。逆境にあつても、祟りではなく、神様に祝福された者として、常に喜びを持つて生きていくことができるのだ」これが、旧約聖書のノアの物語が伝えていることだと思えます。

2デナリオンの隣人

今年、体温を超える暑さの続く夏でしたが、各地から聖職・信徒に限らず、関係学

校・団体の教職員や学生さん、そして、他教派の方々も加わり活動が行われました。そして、8月末で宿泊を伴うボランティアセンターは閉じ、各地のニーズに応じた形で、活動はシフトチェンジを行うことになりました。

「愛すべき隣人とは誰か」という問いに対して、イエス様は見ず知らずの旅人を助けたサマリヤ人の譬え話をされ、「行つてあなたも同じようにしなさい」とお勧めになりました。(ルカ10:25)

「あなたが隣人となろうと出ていく時、全ての人があなたの愛すべき隣人になるのだ」というのが、答えということになります。

けれども、人は「完全」や「無限」ということには、とても無力です。隣人として全てを担い続けることはとても出来ないでしょう。

良きサマリヤ人は、傷ついた旅人を2デナリオン(2日分の賃金相当)と共に宿屋に委ね、自らの旅を続けました。僅かのパンを豊かに祝し、生涯の中の数日分の労力を分かち合うことをお勧めになる神様の導きのもと、これからも歩みを進めることが出来ればと思えます。

岡山聖オーガスチン教会牧師
姫路顕栄教会管理牧師